

公益財団法人あいちコミュニティ財団「セオリー・オブ・チェンジ2020」(事務局案)160605 ※2020年までの問題解決の仮説

目標(Goal) 【2025年を想定】	目的(Objectives)	事業(Activities)	結果(Output) 【毎年を想定】	成果(Outcome) 【毎年を想定】	影響(Impact) 【2020年を想定】	
				事業に関わる「人」や「組織」の意識や行動の変化(NPOの組織基盤を強化)	「地域」や「社会」の変化(安心できる地域の未来を創造)	
(団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になる2025年までに) 「子ども」「大人」「シニア」の各当事者を地域で支え切るロールモデルが、「海部」「尾張」「知多」「名古屋」「西三河」「東三河」の各地方に育まれている【計18団体】	【「資源提供者(市民)」に対して】 1. “成果志向”の市民を育む	(1)愛知県内の地域課題を「見える化」する	①情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ●フェイスブック:「いいね！」3,000(2015年度:「いいね！」2,131) ●メールマガジン:登録者3,500名(2015年度:登録者2,391名) 	●寄付者へのアンケート:「寄付の動機」の回答で「毎年のことから」が16%(寄付白書2015:29.7%)	
			②場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●「ワガコ」サロン:6回、参加者30名/回、満足度90点/回(2015年度:2回、参加者24名/回、満足度84点/回) ●支援先訪問ツアー:3回、参加者15名/回、満足度90点/回 		
		(2)その解決に挑む市民公益活動を推進する団体等の認知度を高める	①伴走支援(ボランティア)	<ul style="list-style-type: none"> ●あいちの課題を深掘りするボランティアスタッフ「モグラ」:25名(2015年度:25名) ●NPOの“志金”調達を応援するボランティアスタッフ「フレンドレイザー」:25名(2015年度:16名) ●助成事業の「物語」をつむぐボランティアスタッフ「ツムギスト」:20名(2015年度:8名) ●子どもの問題の普及啓発に取り組むボランティアスタッフ「ママボノ」「パパボノ」:15名(2015年度:12名) 	<ul style="list-style-type: none"> ●1人あたりのボランティア時間数:12時間/月(2015年度:8時間/月) ●ボランティア継続率:30%(2015年度:22%) 	
				(3)活動に必要な資金等の地域資源の循環を推進する	①資金支援(寄付)	
		(1)愛知県内の地域課題を「見える化」する	①情報発信			
				②場づくり	●「あいちの課題深掘りBOOK」を読む会:2回、参加者30名/回、満足度90点/回(2015年度:2回、参加者18名/回、満足度94点/回)	
	(2)その解決に挑む市民公益活動を推進する団体等の認知度を高める	①場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●寄付の教室:参加者30名、満足度80点 ●最終(公開プレゼンテーション)選考会:4回、参加者20名/回、満足度90点/回(2015年度:3回、参加者8名/回、満足度93点/回) ●事業報告会:3回、参加者20名/回、満足度90点/回(2015年度:5回、参加者30名/回、満足度88点/回) ●成果報告会「モチヨリ」&地域円卓会議:3回、参加者50名/回、満足度90点/回(2015年度:1回、参加者48名/回、満足度94点/回) ●周年記念イベント「イロバ」:参加者100名、満足度90点(2015年度:参加者65名、満足度94点) ●ドネーションパーティ:参加者100名、満足度90点(2015年度:参加者46名、満足度88点) 	●支援者数が支援終了後に増加している団体数:支援先の84%		
			(3)活動に必要な資金等の地域資源の循環を推進する	①資金支援(助成)	<ul style="list-style-type: none"> ●あいちの課題深掘りファンド:説明会&相談会20団体→応募10団体→助成3団体、満足度90点(2015年度:説明会&相談会23団体→応募6団体→助成3団体、満足度93点) ●あいち・なごや子どもとつくる基金:説明会&相談会15団体→応募8団体→助成2団体、満足度90点(2015年度:説明会&相談会11団体→応募7団体→助成2団体、満足度92点) ●冠プログラム(1)東海ろうきん傍楽ファンド:説明会&相談会15団体→応募8団体→助成2団体、満足度90点(2015年度:説明会&相談会11団体→応募3団体→助成2団体、満足度88点) ●冠プログラム(2):住友友理工あつたか未来基金:説明会&相談会15団体→応募8団体→助成2団体、満足度90点(2015年度:説明会&相談会12団体→応募5団体→助成3団体、満足度90点) ●「0~100歳のまちづくり」知多地域たすけあい基金:説明会&相談会15団体→応募8団体→助成2団体、満足度90点 ●事業指定プログラム「ミエルカ」:説明会&相談会20団体→応募10団体→助成5団体、満足度90点(2015年度:説明会&相談会18団体→応募4団体→助成3団体、満足度85点) 	●寄付収入の絶対額が支援終了後に増加している団体数:支援先の50%
					(1)愛知県内の地域課題を「見える化」する	①行政
	【「資源提供者(法人等)」に対して】 3. 未来から逆算して協働する	(2)その解決に挑む市民公益活動を推進する団体等の認知度を高める	①士業	●遺贈寄付相談センター:遺贈寄付アドバイザー研修2回、登録50名 ※愛知県弁護士会:会員(弁護士)数1,781名、法人数117法人(2015年7月現在)	●パンフレット配布数:2,000件	
				②中小企業(特に飲食業)	<ul style="list-style-type: none"> ●カンパイヤリティ:呼びかけ店舗数の50%(3,500店)(2015年度:呼びかけ店舗数の28%(1,938店)) ●「あいちの課題深掘りBOOK」広告:営業150社一協賛20社(2015年度:営業55社一協賛17社) ●あいち“志金”マルシェ化計画:参加24社 	<ul style="list-style-type: none"> ●募金箱:設置店舗数100店(2015年度:29店) ●寄付つき商品数:日本一(2020年度末) ※山口県共同募金会:100社(2016年5月現在)
		(3)活動に必要な資金等の地域資源の循環を推進する	①大企業(特に製造業)		<ul style="list-style-type: none"> ●冠プログラム:新規2件(2015年度:新規2件) ●トヨタNPOカレッジ「カイケン」:支援30団体、満足度80点 ●デンソープロボプログラム:支援3団体、満足度80点 	<ul style="list-style-type: none"> ●支援者数が支援終了後に増加している団体数:支援先の84% ●寄付収入の絶対額が支援終了後に増加している団体数:支援先の50%

※この「Theory of Change」は年に一度見直し、必要に応じて修正する(毎年7月を想定)